



# 移民政策学会

Japan Association for Migration Policy  
Studies Annual Conference

2018年5月26日・27日(sat/sun)  
東京大学/The University of Tokyo  
Komaba 1 Campus  
KOMCEE 21

<http://iminseisaku.org>

## 主催

-移民政策学会  
-東京大学・グローバルコミュニケーション研究センター

## 後援

-東京大学・大学院総合文化研究科 地域文化研究専攻  
-東京大学・大学院総合文化研究科 人間の安全保障プログラム  
-東京大学・大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構 持続的平和研究センター

2018年5月26日（土）13：00～18：00

ミニシンポジウム（続き）

## 特別講演会

13:00～14:30 K011教室

講演者：渡戸一郎（明星大学名誉教授、  
移民政策学会元会長）

題目：＜多文化共生＞再考

――多文化主義とインターカルチュラリズム  
の狭間で

司会：水上徹男（立教大学）

## ミニシンポジウム

14：45～16：45 K011教室

テーマ：複数国籍の是非と「国のあり方」  
―国籍法と実態のギャップから

司会・ファシリテータ：武田里子（大阪経  
済法科大学）

企画趣旨説明：武田里子

## パネリストによる報告

1. 複数国籍容認にむけて：日本社会におけ  
る国籍の壁

佐々木てる（青森公立大学）

2. なぜ韓国は複数国籍容認に舵を切ったの  
か

宣 元錫（中央大学）

3. 国際結婚から生まれた者として国籍問題  
を考える

サンドラ・ヘフェリン（コラムニスト）

4. 私の子どもが日本人でなくなった？冗談  
でしょ！―国籍確認訴訟原告の父として

吉田知浩（会社役員）

コメント

近藤博徳（弁護士）

まとめ

塩原良和（慶應義塾大学）

2018年5月27日（日）10：00～16：30

シンポジウム（続き）

## 自由報告・国際セッション

10:00-12:00

K211、K212、K213、K214教室

社会連携セッション（スーパー  
グローバルハイスクール高校生の報告）

11:00～12：30 K011教室

司会：明石純一（筑波大学）

## 第1部／Part 1

1. 第三国定住によるミャンマー難民受け入れと  
留学生としてのシリア難民の受け入れ

杉浦正俊（外務省総合政策局人権人道課長）

2. 民間による留学生としてのシリア難民の受け  
入れ

石川えり（難民支援協会代表理事）

3. 難民の社員としての雇用

シェルバ英子（株式会社ユニクロCSR部）

## シンポジウム

13:00～16:30 K011教室

テーマ：日本の難民政策：難民グローバル  
・コンパクトから見たその立ち位置

ご挨拶

日本の難民政策:難民グローバル・コンパク  
トから見たその立ち位置

滝澤三郎（東洋英和女学院大学／国連

UNHCR協会理事長）

基調講演（調整中）

## 第2部／Part 2

1. 政府による資金協力

長徳英昭（外務省国際協力局緊急人道支援課  
長）

2. 民間による資金協力

星野守（国連UNHCR協会事務局長）

3. 現場から見た日本の資金協力（1）

河原直美（UNHCR駐日事務所次長）

4. 現場から見た日本の資金協力（2）

（登壇者調整中）

質疑応答